

## 令和5(2023)年度栃木県ニホンザル管理計画モニタリング結果報告書(概要版)

### 1 総合評価

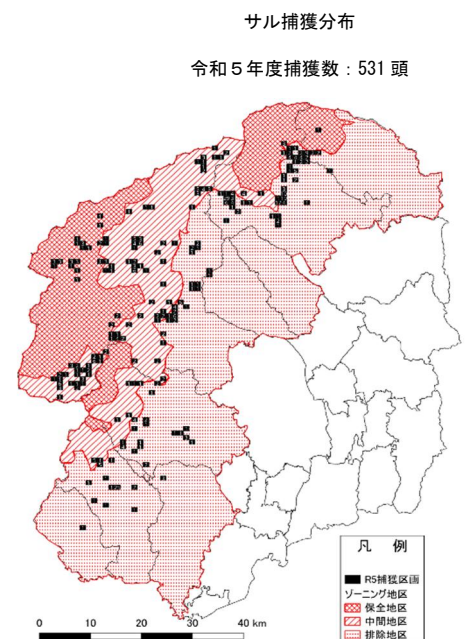
捕獲数は531頭であり、前年度から約10%増加した。農作物被害金額は、被害が多かった地域での対策が進んだことにより、前年度から約40%減少するとともに、平成25(2013)年度以降最小となった。

引き続き、群れの生息範囲等に応じて捕獲を実施するとともに、集落内の不要果樹の伐採等に加え、追い払い等を組み合わせて実施するほか、鳥獣管理士等を活用し対策を検討するなどして、地域ぐるみの総合的な取組を推進していく必要がある。

### 2 調査の結果

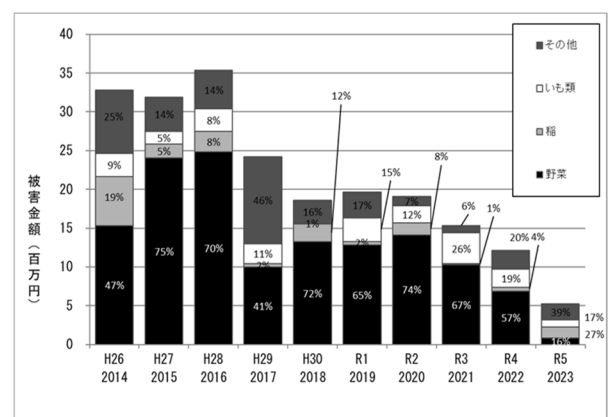
#### (1) 捕獲数と捕獲の分布等

- ・捕獲数は531頭で対前年度109%となった。
- ・排除地区及び中間地区での捕獲が多く、県の北部から北西部に分布していた捕獲数の多い区画が少なくなる一方、県の南西部に散在するようになった。
- ・オスとメスの捕獲数はほぼ同数であり、捕獲におけるオトナの割合はオスが8割、メスが9割であった。
- ・捕獲場所の環境は山林が最も多く、捕獲方法は銃器が最も多かった。



#### (2) 農業被害の発生状況とその対策

- ・令和5(2023)年度は対前年度40%程度に減少した。作物別では稲や果樹への被害が多かった。
- ・農業集落アンケート調査の結果、県北部の那須塩原市や、西部の日光市から鹿沼市、佐野市にかけての地域に、被害の大きい地域が分布していた。また、県東部においても、大田原市を中心に局所的に被害が発生していた。
- ・被害防止対策としては、引き続き、不要果樹の伐採や藪の刈り払い等の「環境整備」、棚の設置や追い払い等の「防護」を組み合わせるとともに、加害レベルの低減に向け、鳥獣管理士等を活用して地域が主体となって集落の点検や対策の検討などの地域ぐるみの総合的な取組を推進していく必要がある。



サルによる農作物への被害金額の推移